



The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ2024年1月報

会 長	永井孝憲	副 会 長	佐々木絹子
書 記	高松成士	会 計	吉田一恵
メネット会長		担当職員	高橋光子

- 国際会長主題 「輝かそう、あなたの光を」
- アジア太平洋地域会長主題 「変革のための光となろう」
- 東日本区理事主題 「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
- 北東部長主題 「クラブのミッションを育てよう」
- クラブ会長主題 「若者とともに、YMCA との提携を深める」

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町 9 番 7 号 仙台YMCA内
仙台クラブ Facebook: <https://www.facebook.com/sendaiys/>

<今月の聖句>

「新しい歌を主に向って歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって 主は救いの御業を果たされた。」 詩編 第98編1節

「大災害で始まった2024年の年頭所感」 岡 久雄

今年は、新年の祝辞を述べる間もなく、悲惨なニュースが飛び込んできて祝いの声も失った。申すまでもなく、能登半島大震災であり、続いて羽田空港での航空機衝突事故であった。後者事故の因果関係はほぼ判明しているが、能登半島の災害は日ごとに凄まじい真相が明らかになってきており、心を痛めている。国内はもとより海外からもいろいろな支援が寄せられているが、復旧の目途は未だ見えてこない。



現在、地球上では、気候温暖化問題の他に、震災、噴火、水害などの大災害が増えてきているように思う。人類社会はその対処に協力して立ち向かわねばならないに関わらず、一方で残酷な戦争はますます激しくなっていて、誠に憂うべき時代となってきた。

私は昨年、数え年99歳の白寿を迎え、子や孫、曾孫たちが、仙台に集まり、祝ってくれ、大変嬉しく大いに感謝したが、この歳になり世の行く末をこんなに憂うとは思わなかった。

そう言えば、29年前の今日、1月17日午前6時46分に起きた関西淡路大震災を思い出す。当時私は東京町田に住んでいたが、早速新幹線で新大阪まで行き、不通になっていた阪急電車には乗れず、レンタカーを借り、混雑する国道を通り、橋が折れたり、倒壊している家屋などを垣間見ながら、宝塚の旧我が家、そして被害の大きかった西宮市の甲東教会へ行き着いた。大きな被害を免れた甲東教会では、会館の2階を近所の被災者たち

に開放し、庭では夕食の炊き出しをしており私も手伝いに加わった。

当時神戸 YMCA では、青年たちが他に先駆けて被災者に寄り添ったボランティア活動を始めており、これが新聞紙上に掲載され、日本で始めてボランティアという言葉が認知されるようになった。

さて、現在のような人類社会にあって、我々はどうすればよいのか？YMCA やワイズメンズクラブの力は決して大きくないが、我々は積極的に我々の出来る、被災者に寄り添った支援を努めばなるまい。

もはや 100 歳にならんとする私には、行動的な支援は難しい。残されている可能性は祈る事のみであるが、この祈りは必ず神へ届くことを信じて止まない。



1月の例会
 日時：1月23日(火)
 18:30 ~
 会場：仙台YMCA
 内容：次期役員選考 他
 担当：工藤・中川

12月19日例会報告（広瀬川と合同）	
在籍者	19名
出席者	8名
メイキャップ	0名
ゲスト・ビジター	4名
メネット・コメット	0名
出席率	42%
オークション（折半）	20,400円

1月のお誕生日

1月 8日 佐々木絹子さん
 1月24日 三上雅敏さん
 おめでとうございます

1月の強調月間： EF・JEF

EF：国際ワイズダム発展のための国際協会の特別献金
 JEF：東日本区ワイズ献金。東日本地区ワイズ運動の継続的奉仕活動をさえるため。



**私の好きなY' Sの思い出あれこれ
 Yでの初めての体験**

三上 雅敏

2003年7月26日発生した、矢本・南郷を震源とする震度6強の地震があり、被災地の子供たちを励ますため野蒜で接する機会がありました。

昼食にカレーを振舞い、子供たちとサッカーで走り回り汗を流す、ドッジボールで遊ぶ、最後にキャンプファイヤーをするプログラムへ参加いたしました。

役割分担で、私は昼食を作ることとなりました。料理をしたこともなく、自身初めての体験でした。野菜の洗い・皮むき・切り方・炒め方・煮る・カレールーを入れるタイミングとメネットの木目細かな指導により、自分でも出来ると自信を持ちました。子供たちのお替りの列ができ、うれしそうな顔が今でも忘れられません。ボランティアとはこのようなことだ



と思いました。

その後、青森営業所を開設し12年の単身生活が始まりますが、この経験が生き炊飯・自炊が出来るようになりました。その後、我が家でカレーの時は自分で作り隠し味は色々工夫を重ね進化している我が家のカレーです（自分で思っているだけ）。

【能登半島地震】YMCA 緊急支援街頭募金に参加して

吉田 一恵

2024年1月1日午後16時10分ごろ、石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。テレビ、ラジオから日々流れる映像等を見ていて、13年前の東日本大震災を思い出し、今、自分が出る事は何かと問い、年齢的なこともあるので、2024年1月14日に仙台YMCAに仙台三越前での【能登半島地震】YMCA 緊急支援街頭募金実施に参加しました。

参加者はYMCA職員を筆頭に関係者のお子様、4ワイズのメンバーも参加いたしました。

加藤総主事が時々参加者を数えていましたが、今回はお子様の参加も多く、中間には50人で最大70人とお聞きしました。やはり子供さんたちの「お願い致します。」の声で老若男女問わずの方からの募金を感じました。

また、近年大きいショッピングモール等が出来たことの影響か、日曜日の三越前の人混みが少ないかなと過去のYMCA実施の街頭募金に参加していて感じました。



12月例会報告

【12月例会報告】

仙台ワイズ・仙台広瀬川ワイズ クリスマス合同例会

期日 2023年12月19日(火)18時30分~20時30分

会場 仙台YMCA 203教室

第一部 クリスマス礼拝

18時30分、式次第に従い司会佐々木絹子ウィメンより「仙台ワイズ・仙台広瀬川ワイズクリスマス合同例会」開催の呼びかけがあり、両クラブ会長が会長席に付きクリスマス礼拝を守った。参加者19名が黙祷の静寂を作り、一同で讃美歌112番「もぞりとこそぞりて」を唱和し、マタイによる福音書第1章第23節「イエス・キリストの誕生」の一説の朗読があった。感話を小幡忠弘ワイズよりちょうだいした。

『結婚三年目、我が子を授かった折、実父が初孫の誕生に『ハンザーイ』と叫び喜んでくれたことを思い出す。神様から授かったギフト『命』を喜び、思いがけない表現で『命』の大切さを実父より教わったと思う。神様からのギフト『命』を感じ思う。それがクリスマスなのではないでしょうか。』

小幡ワイズのお祈りを以て第一部クリスマス礼拝が終了した。

第二部 祝会

一息つき、礼拝の厳かな雰囲気を一変しての賑やかな佐々木ウィメンの第二部が始まった。永井孝憲仙台ワイズ会長による開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条、開会の挨拶があった。「昨年より合同開催の話を経度もいただいていた仙台広瀬川ワイズの皆さんにお越しいただき賑やかに開催できること、心より感謝である。両クラブの現状を理解し合併についてのザックバランな意見交換もでき



れば幸いです。どうぞ、ゆっくり、存分に皆さんで愉しんで過ごしましょう。」永井会長より、ゲスト3名(松島晃子さん、関川美紀さん、半澤明美さん)の紹介があり、折角であるので両クラブの紹介もさせていただきますので、その場でアピールくださいとの呼びかけがあり、仙台広瀬川ワイズ7名、仙台ワイズ9名の紹介があった。遅れている多田修仙台広瀬川ワイズは、お越しいただき次第ご紹介させていただきますとの説明があった。



続いて、加藤雄一仙台広瀬川ワイズによる食前感謝、加藤研仙台広瀬川ワイズによる乾杯を以て、皆さんお待ちかねの会食となった。加藤研ワイズの乾杯時、シンガソングライター竹内まりや氏の『いのちの歌』の歌詞が読み上げられ、第一部礼拝感話の『命』につながる歌詞であった。

『いのちの歌』

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに 胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
 この星の片隅で めぐり合えた奇跡は どんな宝石よりも たいせつな宝物
 泣きたい日もある 絶望に嘆く日も そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影
 二人で歌えば 懐かしくよみがえる ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり
 本当にだいじなものは 隠れて見えない ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜びがある
 いつかは誰でも この星にさよならを する時が来るけど 命は継がれてゆく
 生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと
 そのすべてにありがとう この命にありがとう

全3テーブルに19名。吉田一恵さん手配の豪華お弁他、小幡さん準備の各種茶菓とお飲み物、仙台広瀬川ワイズよりのチーズケーキ他(チーズケーキはその場での切り分けもしていただきました)、今澤智代ウィメンよりの果物とお漬物。ジュース、お茶、アルコールも進み、3テーブルを無視した賑わいを持ちました。会食も進み始めた19時30分、心待ちにしておりました多田修仙台広瀬川ワイズが到着いたしました。

クリスマス例会でお馴染みのオークションが始まりました。仙台ワイズとしても久しぶりの大人数のオークション。オークション物品も多く賑やかで華やか。進行係のバイヤー親子(絹子さん、永井さん)による物品調査の後、オークションが始まりました。持ち寄った一品一品をバイヤー親子の巧みな掛け合いでスムーズに進みます。アルコールと場という最高の環境の中、時には爆笑に包まれる場面もあり、ゲストもしっかりオークションに参加され愉しんでおりました。物品は勿論すべてさばかれ、売上金32,300円との報告でした。今年売上金を仙台ワイズと仙台広瀬川ワイズの参加者人数で按分することも確認済みです。仙台ワイズ20,400円、仙台広瀬川ワイズ11,900円となります。いずれも仙台YMCA国際・地域協力募金として支援されます。



賑やかに進んだオークションも無事に終了し、閉会へと向かいました。司会の絹子さんより、誕生祝いの発生があり、『今月誕生の方おりませんか?』。ゲストを含め今月誕生の方はおりませんでした。続いて、連絡・報告。小幡さんより、「12月17日開催の国際・地域協力募金運動ではご協力ありがとうございました。」とのお礼。先月に続き「2月28日開催のピンクチャツデーの準備がYMCAです済んでおります。ご理解とご協力をお願いいたします。」との報告がありました。閉会挨拶は、菅野健仙台広瀬川ワイズ会長より頂戴しました。



「仙台広瀬川ワイズは例会参加者が振るわず、実は、レストラン等で小規模に静かに行う予定でした。今回、仙台ワイズ永井会長の呼びかけに応じて本日合同例会が開催できましたこと、そして、私が仙台ワイズ在籍時を思い出すような雰囲気と賑やかさを味わえたことに感謝いたします。良い時間を共有できました。次回は、是非、4月の『花見合同例会』が実現できるようにと願っております。本日は、ご準備くださいました皆さん、ゲストの皆さん、両クラブの皆さん、本当にありがとうございました。」菅野仙台広瀬川ワイズ会長の閉会点鐘を以て閉会となりました。

ピンクシャツデーは2月28日(水)

いじめ防止で始まった運動ですが、仙台YMCAでは「みんなちがってみんないい」の思いで運動を行ってまいります。あと一ヶ月ですが、YMCAにチラシがありますので、ぜひ近くの人から少しづつ呼び掛けてもらえたら嬉しいです。



#YMCAPINK

Y M C A
P I N K
S H I R T
D A Y

#StaySafe, StayConnected